

中津西地区女性懇談会議事録

開催日時	平成22年11月25日（木曜日） 15時00分 ～ 16時45分
開催場所	環境センター 二階 大会議室
出席者	市民：中津西地区 26名 榑松議員、手賀野上区区长
	行政：大山市長、林地域振興局長、斉藤広報広聴課長、氷室コミュニティ課長、 外（コミュニティ課2名、広報広聴課1名、秘書課1名、行政管理課1名）

15:00

- 司 会：それでは中津川市長・大山耕二様よりご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願ひします。
- 市 長：この懇談会の持つ意味は、市政を進めるにあたり市政懇談会は各区の区長さん達が参加され大
 体が男性で高齢の皆さんです。区長さんも広く物を見ながら、取り組んでおられると思います
 が、女性の皆さんの視線・視点で物を見るのは間接的になる。女性懇談会を私が市長になって
 以来開催しております。合併して市政懇談会、女性懇談会は公平に実施する形で合併前の町村
 も単位毎で実施しています。合併後 10 年の間に1つの新しい中津川市の一体感を作らないと
 いけないことがあって、女性懇談会は、2地区・3地区合同の形で実施しております。今回、
 西地区と苗木地区という提案でしたが、馴染みが薄いという話で、今回は別々になりました。
 色々な形の組み合わせで、他の地区に来ていただくことで、合同でやる意味があると思いま
 す。今後そういう形でもお願いしていきたいと思っています。
- 市政報告ですが、中津川市の課題は何と言っても人口の減少です。中山間地と言われる地域の
 人口の減少が著しい。複式学級の恐れがある地域が何地区もあり、中学校が成り立ちにくくな
 っている。地域の意味と存在意識が薄れていくので、U I ターン住宅を整備して投資してい
 きたい。厳しい状況であるが流れに抵抗してでも、流れを食い止めていきたいと取り組んでいる。
 少子化前提に物事を組み立てることは、特に地方に目が、光が当たっているのかというところ
 でもない気がします。県でも人口が減少することを前提に物事の大体組み立てている。私が子
 供の頃はフランスが人口の減少の最中で、少子高齢化であった。そのフランスも人口の減少を
 食い止めるため、色々施策を行い、後継出生率が上る状態になってきている。取り組めば、取
 り組む例があると思っているが、そういう形で国は何も行っていない。県においても人口が減
 り、中山間地域の高校生が減る。減ると先生が少数になる、恵那北高校も中津高校に統合とい
 うこと。行政としてやめるのは簡単な話だが、市民がそのあおりを受けるということです。例
 えば加子母の高校生が中津の高校に通うと年間 28 万円くらいのバス代がかかる状況です。行
 政の都合のいいようにすると、市民、利用者の立場は、非常に困る状態になる。益々過疎化に
 拍車がかかる。生徒がいなのだから統合、後で出てくる影響には手を打たない。県全体の流れ
 もそういう形になって、私自身は、国の状況、県の状況の基本的なところで大変違和感を持っ
 ている。
- その中で、従来の公共住宅は、低所得者を対象に入っていたと、ずっと入っていた形
 ですが、U I ターン住宅は少し所得が少し大きくても 35 歳未満の人で5年間入っていたと、
 その間に地元の家を構えていく、低家賃月 ¥30,000 で備えてもらおうと。地元の人達にも土地
 を斡旋していただく計画で、中津川市だけが実施している。国の交付金を活用し、合併特例債
 も活用している。神坂と阿木と加子母に出来る。来年の春には、山口、川上というように高齢

化が進んで、子供達の数が少なく、小学校の維持がきつところを中心に実施。神坂は子供さんの声が聞こえるようになった事で地域の元気につながってくるとたいへん評価をいただいている。

仕事がないと住宅だけではどうしようもない。加子母のUIターンは、募集をしたところ、応募が少ない。仕事がないと住宅があっても住まないのが、今工場の誘致で建築中ではありますが、産業政策も必要になってくる。できれば付知辺りで製造業を展開してほしいと思っていますが、工業立地の奨励金等も含めて、もっと充実していく必要がある。それから子育て支援が大事だと。産業（仕事）・住宅（住むところ）・子育て支援、この3つを最重点事項として、取り組んでいる。

3つに加え、教育と医療、交通弱者の足の確保、情報化。情報化については、光ファイバーを全市に整備しました。NTTは町周辺しか整備しないので、これから生活、仕事の必需品になるという認識の元に整備したところです。中津川全体の加入率は整備したところの50%台になる。NTTが儲かることを想定して、全国で光ファイバー網を整備した加入率の全国平均は30%台であった。中津川は相当利用される状態です。このことが将来の産業を誘致したり、ソフト産業を振興していくことに繋がっていく観点から大いにPRしていきたい。将来的には、市役所にきて書類を出すのではなく、自宅からPCで申請して自宅で受け取る。PCが不得意な人は地域で受け取り、届けて頂く。PCを操作する人へも手数料の支払いをしていく。地元で色々サービスが出来るようなことを考えている。

交通弱者の足の確保ですが、高校生のバス通学の問題も絡んでくるが、有料のバスに頼るだけではなく、お互いの助け合いの中で、病院に行ったり、買い物に行ったり高齢者の足、高校生の足をボランティアの仕組みで組み立てていきたい。高校生の足の話は、9月議会において、平均よりも上回る分については、高校はほぼ義務教育化しているので、応援をしていこうと表明し、どれくらい応援するかを検討している。

医療の面も大事で、医師の確保。みなさんに心配やご不自由をおかけしていますが、2004年に研修医制度が変わり、都市部の総合病院で研修しても良い形で、制度が規制緩和され、都市部の大学病院で専門的な研修を受けて、医師として育っていくことがあって、この科目は見れるがあの科目は見れないというお医者さんが増え、地方に行った時に、総合医というお医者さんも大事だということで、総合医を育てようと。大学病院は、給料が安いこともあって、研修医の不満もあった。都会の総合医として研修することもOKになって、大学病院から都会の総合病院に移った。そうすると大学病院に人が居なくなる。大学病院の運営が出来なくなる。大学病院の運営は、教授・助教授、先生方がそれぞれの診療科目を取り仕切っていて、その教授が医師の派遣を一手に決めている。教授が自分のところの研修医が居なくなって、地方に派遣していた研修医に戻って来いと。大学病院は減ったところを穴埋めする。最終的にし寄せがきたのが、地方の公立病院。大学病院から派遣されていたから引き上げられた。全国的な状況である。多治見病院と中津川市民病院が1つの拠点的な病院になっていて、名古屋大学から送っていただいている。名古屋大学は、土岐の市民病院、瑞浪の厚生病院にも送っている。東濃東部は、中津川市民病院が大事なところと認めているが、研修生・医師も地方ではなく都会に近いところを望む部分があって、中津川市民病院も大変厳しい状況である。

年に十数回、個々の科目の教授に、人を派遣して欲しいとお願いにいき、病院長、学部長にお願いしたが、循環器内科、心臓の関係はこの教授だと、産科だこの教授だという形で、みんな

なに頼んでいく必要がある。全国的にも産科は出産時のトラブルが多い科目で、裁判が多いので医学生が産科を希望する度合が少なく研修医制度が変わる前から少ない状態である。中津川の市民病院は産科医師が3名であるが、従来から減っている。その3名を維持するため恵那市で開業していた産科の先生に来ていただき維持しているが、3名のうち2名が高齢なので不安定な状態に変わりはない。お願いしているが、全体的に名古屋大学も派遣できる産科医が少ないことで、応じていただけない。片方で産科の処置をしていただく必要があるので、3名でもなんとか繋いで継続していくため、私自身も心苦しいし、言い状態ではないと思うが里帰り出産を制限している。里帰り出産は林先生が受け持っている部分はありますが、林先生と中津川市民病院が連携を取って、林先生が処置しにくい部分は中津川市民病院の先生が林クリニックにかけつけて処置をする形で連携を取っている。中津川市と恵那市を含めて4名の医師だけということで、恵那市長も一緒に名古屋大学の産科の教授にお願いに行っているが、全体に厳しい状態ですが、引き続き行っていく。内科の先生の引き上げも、この4月から出てきており、市民の皆さんにご不便をお掛けしている。本来中津川市民病院がやらなければならないのが、手術とか高度検査、専門治療とか他の開業医さんでは、できないようなことを受け持つていくことが恵那市、中津川市の拠点病院として位置づけであり、最後の砦として守らなければならない。最後の砦を守るには、今まで初診外来を受けていたが、開業医へまず行って、紹介を持って専門治療をしなければいけない市民病院本来の機能をしっかりやるため、内科については初診外来を開業医にお願いする形に、救急についても、開業医のみなさんに夜も当番を決めていただく形にして、少なくなった内科医がもう辞めたいと言わないような形をとっている。引き続き名古屋大学には恵那市共々お願いをしていく。院長は絶えずまた、きめ細かく各教授のところをお願いに行ってくれているが、引き続きやっていきたい。

派遣だけでは心もとない部分もあり、中津川市で将来働くことを条件に奨学生を募集している。この3年の間に現時点で7名の方に奨励金を出している。その方たちが、研修で中津川市民病院にも来ていただけるのではと。その中には産科医の方が2名いるので、長い目で見た形で全体的にお金もしっかりつぎ込んでいまして、奨学金をはじめ、看護師の確保にも、この9月議会で増額してもらおう。平成22年度の予算では1億5,000万円程その部分につぎ込んでいる。これは補助金も使えないので、市の正に純粋なお金を使っている。一部に図書館をやるから市民病院のお医者さんが来てくれないのだとおっしゃる人もいますが、図書館は大体18億程の事業費がかかるが、そのうち純粋に市の必要とするお金は、交付金、合併特例債や、国のお金をもらう形で、一部、県の景気対策のお金も入れて、全体の26%程の4億7,000万円を取り組んでいる。1億5,000万円をお医者さんの確保に年間用意しているので決してお金を、医師・看護師の確保に回していないから医師・看護師が不足しているわけではない。各市長とも大学病院へのお願い合戦になっているが、負けない形に中津川市民病院にどうしても医師が必要だということで願いにあたっていきたい。名古屋大学医学部では東濃において、どこを支えていくかにおいては県立多治見病院と中津川市民病院がまず大事な病院であることはしっかり認識をしていただいている。中津川市民病院は中津川市だけでなく恵那市においても関わる病院で、高度治療・専門治療を行う認識はしていただいているので、しっかり応対をしていきたい。

また、3点セットプラス4を重点的に進めているが、進める上で財政も健全に保たなければならない。借金を減らしながら仕事をしている。合併後、旧町村と旧中津川市に全部で1,107億

程借金があったが、5年間で150億程減らし950億程になっている。考え方は、借金は返す以上に借りないのを原則として、だけど仕事はやる必要がある。国・県の補助金・交付金を入れ、呼び込んでいく。借金も合併特例債は、それを返す時に、合併した町村には有利になるように、10年間それが借りることができる、将来返す時に、国が一部お金をくれる借金を活用して財政のことも健全性を保ちながら仕事に取り組んでいる。

その他に職員の数ですが、今は870人弱になっている。合併した当時は、1,100人ぐらいのところであったが減らしており、合併後10年で850人にするという取り決めがあったが、合併にまつわる色々条件のいい時に、人件費に食われてしまうので、5年に短縮して実現しようということで、今年度末には850人になってくる。5年半経過しているが6年で850人になる状況である。人件費もそれに応じて減ってくる。しかし仕事はやっていく必要があるので、仕事のやり方も変えて行政改革をする必要があるので取組をしている。ITの活用なども組み込んでいくところである。重点施策をやりつつ健全性を保ちながらサービスを提供している。

・自己紹介

15:38

・懇談

発言者	発言要旨	対応者	対応（回答）の内容
4区 ●●	<p>・西小学校の敷地内に防災備蓄倉庫の設置</p> <p>携帯メールで地震情報が多く寄せられる。</p> <p>東海大地震に備えて地域の避難所となる西小学校に備蓄倉庫がほしい。</p> <p>・桃山なんかは下水道の関連</p>	市長	<p>地域全体としてご議論いただいて合意が取れているか気になるが、確認して合意が取れていて設置してなければ設置する。どういう区域に設置していくか、何を中に配備するか、確認させていただきたい。西校区全体の総意であれば設置して、そうでなければまたご議論いただきたい。</p> <p>自主防災として考えていただいているのはありがたい。</p> <p>自分の命はまず自分で守る。地域で助け合う。いざ災害が起きると公共の力はそう大きくない。公共は起きたときにどうするかを考えて準備しておく役割。まず地域で助け合って、大きなことは行政が応援するという組立をあらかじめ考えておくこと。また耐震化で災害が起きたときの被害を少なくする取り組みをしておくこと。</p> <p>普段使っている仕組み、道具で災害に対応できるように備えていきたい。</p> <p>・避難生活に必要な食料などの備蓄と救</p>

	<p>でつくったとか、クラブの近くに作ったところもあるが、西小学校を避難場所とする人が多いので避難所のそばにと考えていただきたい。</p>		<p>助に必要な機械などの備蓄もあるので仕分けして組み立てていきたい。</p>
<p>4区 ●●</p>	<p>自主防災組織の自主防災台帳には1アマチュア無線、2看護師、保健師、3医師、4独居老人、障害者などがあるが、個人情報保護など難しい。いざというときに助ける人と助けの必要な方がわかる。行政で防災台帳の整備をしてほしい（大津市の例）</p>	<p>市長</p>	<p>助ける人と助けられる人をしっかり把握をするべき。 災害弱者のリストアップと援助の仕方を明確に全庁的に取り組む必要がある。 プライバシーの保護については本人の了承があるので、地域で取り組んでもらって、地域でしっかり管理してほしい。 助ける側のリストアップについては大津市の取り組みを勉強して取り組んでいきたい。</p>
<p>4区 ●●</p>	<p>西の学童保育所が西小学校のなかに建ててもらったが照明灯がないので親の帰りが遅いときに体育館の東側で暗い中で遊んでいて心配。ぜひ。</p>	<p>市長</p>	<p>実際に足元が暗いのを確認しているので必要性は高い。 前向きに検討するように指示する。</p>
<p>会所ヶ丘 ●●</p>	<p>国民健康保険料が他市町村に比べて高いのではと2年前の女性懇談会で聞いた。当時の張山部長に新聞記事を渡して聞いたが、預かれた。その後どうなったのか。 ほんとうに中津川市は高いのか。年金所得者で固定資産税が高い方で、保険料が高くて大変と言う話だった。</p>	<p>市長</p>	<p>国民健康保険料は税金と異なる体系で考えられているので、固定資産税が高いから保険料が少なくとはならない。 保険については所得面から相対的に負担感が高い。 中山間地では高齢化率が高いので医療費は多くかかるが負担する人が少ないので国民健康保険制度が破綻してきている。 全国的にも問題視されており、全国市長会でも意見を少なくとも県単位で保険料を考えてほしいとあげている。 国においても検討している方向。 現時点で市長の認識では、中津川市においては町村と比べては少し違う。 張山部長へお尋ねいただいた点は認識していないので調べてお答えしたい。 医療費が膨らんでいく、高齢の方が増えていくと増える。 一方では健康づくりを推進、健康は自分で作る、自分の宝。</p>

			<p>健康づくりが医療費の減少と個人の幸せにつながる。</p> <p>ゲートボールをマレットゴルフに変えてリハビリ同様の効果をあげる話もある。</p> <p>同じ金をかけるなら結果として保険料の抑制にもつながるし幸せにつながる</p>
<p>桃山区 ●●</p>	<p>市からの依頼で桃山区で支えあいマップをつくった。</p> <p>個人情報なんていっていたら達成できなかった。</p> <p>お隣同士みんなが仲良くできれば作れる。</p> <p>老人夫婦、若い夫婦、小学生がいる、独身等と色分けした。</p> <p>地区のなかでどういう人が多いか分かる。</p> <p>老人の家なら昼間で新聞が入っていたらおかしいなと思うとか、出かけるときに声をかけるとかをする。</p> <p>その地図を大切にしていれば何かあったら助け合うことが大事。</p> <p>桃山公園周辺は結構明るくなっているのでも夜桜にどうぞ。</p> <p>他の地区でもマップつくりの声があったらやってください。</p>	<p>市長</p>	<p>取り組みとして実際にやっていることを紹介していただいてありがとうございました。</p> <p>地域コミュニティのつながり支えあい、大変大事都会からそれを壊していくものが押し寄せてくる。</p> <p>ストレス社会の行き着く先にいじめとかの問題もある。</p> <p>支えあい、防災だけでなく、独居の方の見守りは福祉の面でも大事、子どもを育てる面でも地域でのかかわりでマナーを学ぶとか高齢者とのふれあいとても大事、ぜひ先進事例として紹介したい。</p> <p>コミュニティ課はそのためにつくった。</p> <p>居場所と出番作り所在不明の高齢者のいるまちではない中津川市にしていきたい。</p>
<p>山手区 ●●</p>	<p>幼稚園のアメリカ人教師が言うには中津川市のまちで高齢の方が優しい、助けてくれると聞く。</p> <p>小さい子どもさんたちの心が育ちにくい。穏やかな心をはぐくんでいく施策は何かお考えか。山口では島崎藤村の歌（椰子の実）が流れると聞かすという事も大事では。</p>	<p>市長</p>	<p>優しさについては「優しい運転」の呼びかけをしている。横断歩道のそばに人がいたら道路交通法のルールどおりに車が止まる。あえて止まる優しさ、2車線道路の右折車線に並んでいるときに進路を譲る、ひとりが止まれば右折車も渋滞した車も。譲るよりは奪い合う競争社会を、市民全体で譲ることに取り組めば優しさを感じられるまちに感謝されると気分がいい。生活の中の優しさ、そのなかで子どもも優しさにふれストレスがなくなる。</p> <p>子どもの前に社会が変わるといい。子ども</p>

	<p>・働きにいかないで子育てにがんばっている母親に手当てがでるといいと思う。</p>		<p>には絵本を多く整備して読み聞かせの環境作りを進めている。母親の抱きしめ、肌のぬくもりが大事だが共稼ぎでなかなか出来にくいので3歳までの母親の所得保障奨励、ぬくもり活動金、等を考えている。</p>
<p>山手区 ●●</p>	<p>中津の町を市長就任前に見てまわられていたが最近は出来ますか。</p>	<p>市長</p>	<p>なかなかそうはできてない部分、今年度のはじめに「外交と公約の年に」とした。外交は現場のことと県、国、名大病院など、公約、ミックス事業の公開質問に答えるかなど内部の打ち合わせに時間がとられ、思うようにいかない 副市長に仕事を渡して機能しているが、副市長もオーバーフロー、部長に下ろしてとできると外交に出られる。就任直後よりは内部も力強く仕事をしている。UIターン住宅、産業立地奨励金など。 現場の大事さは思っているが、広報広聴は目で見て耳で聞いてとあったが、市長だけではまわっていけない。市長の2つの目と耳はチェックに使い、職員が聞かなければならない。市役所の力をつけて、市民の皆さんの声に断らない市役所にしていかなければならない。 市民の皆さんにも職員にいろいろ言ってもらって、ここはやらないといけないがやってくれないので検証してほしいと市長へ声をあげてほしい。とちめるのではなく、レベルをあげていく。合併前は村長に言えば動く、中津川市も町レベルのときはそうだったが、近代的な仕組みに変えていかなければならない。 就任した頃に比べれば力がついて職員に感謝の声が届いていると伝えることもある。</p>

・まとめ

最後に総括ということで、ひとつ紹介をさせていただきます。

合併して15地域ができたわけですが、旧町村には総合事務所を設置しそれなりの職員を配置し所長を置いている。中津三地区を除く旧中津川地域にはコミセンを設置し書類の受付等を行っている。

今まで、中津三地区については市役所が近いため出先を設置せずに行ってきました。直接担当に要望するのも有利な面はあるが、区長さんたちは、多くの担当課を相手に市役所全体を相手にする必要があり大変であった。

そういったことについては公平公正に行う必要があると考えている。

合併後10年のうちに出先の人数の在り方、組織についてバランスをとり地域に対応した組織にしたい。その中で中央公民館を予定しているが中津事務所を設置し、一か所で物事が済むような仕組みを考え、この12月議会に条例を提出している。

市民の声を聞きながらそれに答えていく体制を整えたい。

後4年半で新しいまちの形をととのえていく。その後は交付金も減少し合併特例債などがなくなり、厳しい状態となる。スリムな市役所をつくってサービスを続けていきたい。

・終了 16:45